

令和5年度福岡市食育推進会議 議事録

1 日 時：令和6年1月17日（水） 14：00～15：00

2 場 所：アクロス福岡4階 国際会議場

3 会議次第

1 開会
2 議事（報告）
（1）食育推進に関する主な事業について（取組み状況）
（2）健康日本21（第三次）について
（3）福岡市食育推進会議の今後の予定について
3 閉会

4 出席委員：21名

欠席委員：6名

5 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無 傍聴者：1名

6 議事内容

議事（報告）	
（1）食育推進に関する主な事業について（取組み状況）	
委員	各地域で実施しているこども食堂の取組みは、子どもだけでなくお年寄りなども含めて食文化の継承や仲間づくりに寄与している事業であるが、事務局から説明のあった「食育推進に関する主な事業」と関係のない事業なのか。
事務局	市が実施する事業にもこども食堂に関するものはある。 今回報告した「資料4：食育推進に関する主な事業」としては記載していないが、「参考2：食育事例集」には、「6こども食堂の立ち上げおよび運営」「31こども食堂『つくって

委員	<p>食べよう土曜昼!』などを掲載している。</p> <p>農協では年末などに、地域で家族や仲間です食事を楽しむことを目的とした食のイベントを実施している。イベントで食べ物を提供するにあたり衛生面での基準が厳しくなってきたており、イベント開催がしづらい環境になっているため、基準を緩和してほしい。</p> <p>また、フードロス対策も重要である。食べ残した食事の持ち帰りについて、衛生面での問題があることは承知しているが、個人の責任の範囲など条件を付した上で、基準を緩和してほしい。</p>
事務局	<p>共食は非常に重要であると考えている。</p> <p>いただいた意見は福岡市食育推進連絡会議において共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
委員	<p>福岡市食育推進計画は、食べ物がある前提で作成されていると思う。食べ物を作る将来的な担い手を育てる視点も、今後織り混ぜてはどうか。子どもたちへの教育の一環として、食べ物を生み出す喜びや、生産者の大変さ、魅力を伝えていくのも大切だと考える。</p> <p>また、民間のフードロス対策を行政が後押しすることも必要と考える。</p>
委員	<p>食育については、供給から消費まで、フードシステムのなかで多様な問題が起こるため、そういった幅広い視点で取り組む必要があると考える。</p>
委員	<p>第4次福岡市食育推進計画における「計画推進のための具体的な取組み」として、学校給食を位置づけずに、家庭に食育の責任を一方的に押し付けていることが問題である。</p> <p>農林水産省の第4次食育基本計画では、明確に学校給食が位置づけられており、7つの柱になっている。その二番目が、学校・保育所等における食育の推進として、小学校・中学校・保育園・幼稚園・栄養士・調理師などの専門職の役割とともに、PTAや地域コミュニティ等、社会的役割が明記されて</p>

	<p>いる。</p> <p>専門職や社会的役割の方々が、常日頃から本市の子どもたちの食育について熱心な関わり方をされ、食の大切さへの理解を深めながら、豊かな人間性を育むことに全力をかけている。本市の食育推進計画は国の計画に準拠すると言いながら、これらの方々の位置づけが、本市の計画からはすっぽりと外されている。</p> <p>本市の計画で一番最初に記載されているのが「家庭の役割」である。「家庭での共食は、食育の原点」と書いてあり、食育は家庭で行うものと位置付けているが、間違っている。</p> <p>共食ができる家庭は市の何パーセントいるか。また、孤食している子どもが何人もいる。家庭が悪いわけではない。</p> <p>農林水産省も家庭の事情を踏まえ、食育推進は一番に行政の役割と規定している。行政の次に、教育関係者、食品関連事業者、ボランティアなど関係する団体が相互の理解を深め、連携・協働し、国民運動として食育を推進していくと明記している。対して、本市は家庭に食育推進の役割を押し付ける。</p> <p>また本市計画の中で、家庭の役割の中に、食に関する情報や知識、伝統や文化を次世代に伝え、つなげていくのは家庭だと書かれている。さらに、食に関する基本所作と実践や基礎の理解、健全な食習慣を身に着けさせる役割を家庭に押し付けようとしている。家庭にはそんな余裕はない。本市計画P36に「家族と一緒に過ごす時間が増え」と書かれているが、私が知る多くの子育て世帯では、両親が家族との時間を持てないくらい働いている世帯が多い。</p> <p>「参考1：第4次福岡市食育推進計画（概要）」の「3（1）家庭の役割」に記載されている内容は、学校給食においても子どもや保護者に理解できるよう実施されているのか。</p> <p>中学校の給食の喫食時間は平均21分であり、中には10分の学校もある。そういった状況で、食べ物をよく噛んで味を楽しんだり、咀嚼して消化しやすいようにすることを教えることができるのか。学校給食における食育の観点がなことから、市民から給食無償化の要望があっても予算をつけようとしなない。</p> <p>「計画推進のための具体的な取組み」として、一番に家庭</p>
--	---

委員	<p>の役割を記載し、家庭に食育を押し付けるやり方はやめて、地域・関係団体の役割や行政の役割の中にしっかりと学校給食を位置づけるべきである。</p> <p>二点目は、学校給食における地産地消の取組みである。</p> <p>農林水産省の食育基本計画では、地場畜産物を活用した取組みを増やす目標を掲げている。本市計画 P35 の具体的な目標値に「学校給食への市内産農産物（野菜）利用割合」が掲げられている。</p> <p>市は数量確保が難しいとしているが、ふさわしい予算をつけ、生産者が安心して学校給食のために生産・納品できるシステムを作ることが行政の責任である。</p> <p>保護者などから要望の強いオーガニック食材を学校給食に活用するためには、そのシステムをより安定的なものにしていかなければならない。</p> <p>本市の学校給食は 1 日約 12 万食であり、大量に安定供給が可能な食材を調達する必要があることから、オーガニック食材の活用は難しいと市は判断しているが、オーガニック食材の安定供給のためにも人や予算を増やして対応していくことが行政に求められている。</p> <p>したがって行政責任を明確にし、学校給食における地産地消の取組みについて、目標値を達成する決意を行政が示し、生産者を本気で支えることなしに、福岡の食育は前進しないと思う。</p> <p>今のご指摘を踏まえ、次の市計画に生かしていきたいと思う。</p>
議事（報告） （2）健康日本 2 1（第三次）について	
委員	<p>「資料 5：健康日本 2 1」P3②「健康に関心の薄い者など幅広い世代に対して、生活習慣を改めることができるようなアプローチが必要」③「行政だけでなく、多様な主体を巻き込んだ健康づくりの取組をさらに進める必要」という点について、地域でも取り組んでいるが、一部の方だけが参加している。参加できない方へのアプローチが課題。</p> <p>他の地域の取組みを参考にしたいと、優良事例があれば今後</p>

事務局	<p>「食育取組事例集」に掲載し、共有してほしい。</p> <p>「食育取組事例集」として冊子を毎年作成するかどうかは未定であるが、優良事例があれば、ホームページやSNS等さまざまな媒体を活用して共有したい。</p>
<p>議事（報告）</p> <p>（3）福岡市食育推進会議の今後の予定について</p>	
委員	<p>「資料2：福岡市食育推進条例施行規則」の第2条に部会の定めがあるが、部会の内容、開催時期、部会が扱う審議事項、組織図などについてお尋ねしたい。</p> <p>また「食育取組事例集」に関し、予算決算の報告はないのか。事例集に記載の事業について、内容や実施の決定はどこで行われているのか。</p>
事務局	<p>部会は常設ではなく、5年ごとに福岡市食育推進計画を策定する際に設置している。次回設置の際には、委員の構成など、当会議で諮らせていただく。前回設置の部会は、学識経験者、歯科医師会、農業協同組合など、当会議の委員7名で構成している。</p> <p>「食育取組事例集」の作成自体に予算は使用していない。事例集に記載の事業は各団体が実施しており、市の予算を使用していない。</p>
委員	<p>「資料6：福岡市食育会議の今後の予定について」に記載の市民の食育に関するアンケートに関し、前回実施したアンケートの回収率が低かったように思う。回収率を上げる取組みが必要ではないか。</p>
事務局	<p>前回アンケートの有効回収率は46%である。</p> <p>次回アンケートの実施方法等については今後検討予定であり、回収率を上げる工夫をする。</p>
委員	<p>次回アンケートを実施した際には、回答項目ごとの関係性など分析ができればよいと思う。</p>